



from FRANKFURT



ドイツのサンタさん

© Karl-Michael Soemer

楽し恐ろしサンタクロース



聖ニコラウスと従者克蘭プス（Krampus）と呼ばれる二人の怪人

フランクフルトのクリスマス市



© Tourismus+Congress GmbH Frankfurt am Main

大人も子供も待ち焦がれるクリスマス！ ドイツ語で、Advent（待降節）と呼ばれるお祭りは、キリスト生誕の日の4週間前から始まります。

この季節になると、どの街でも目抜き通りにはクリスマス市が立ち、クリスマスの飾り付けのお店、ソーセージやGlühwein（赤ワインに甘味、薬味を入れて熱したお酒）の屋台が所狭しと軒を連ねます。

各家庭ではStollen（木の実やドライフルーツを入れた焼き菓子）やLebkuchen（蜂蜜たっぷりの生地にシナモンなど数種類のスパイスを入れたケーキ）を何度となく焼いては食べます。そして、もみの枝を編んで作った直径30cmほどのリースに4本のろうそくを立てた飾り（Adventskranz）を作り、日曜日ごとに1本ずつ火をともしながら、クリスマスの到来を首を長くして待ちます。日が短くなり寒い冬の始まりですが、一年で一番楽しい季節でもあります。

さて、白い^{ひげ}髭、赤いマントでお馴染みのサンタクロース（Weihnachtsmann）がやってくるのは、12月24日のクリスマス・イブの夜ですが、ドイツでは12月6日にも、聖ニコラウスという名のサンタクロースがやってきます。Nikolaustag（聖ニコラウスの日）と呼ばれるこの日には、良い子は聖ニコラウスからアメをどっさりもらいます。しかし、油断は大敵！ 聖ニコラウスには、怖い従者がいて、悪い子にはアメをあげないばかりか、ムチでお仕置きをするのです。

16世紀の宗教改革で、聖人崇拜を否定するルターが子供の守護神とされる聖ニコラウスの日を廃止して以降、世界ではプレゼント交換するのはクリスマスの日となったそうですが、ここドイツでは新教徒もカトリック教徒とともに聖ニコラウスの日を祝うのです。

日本から赴任してきた駐在員の家庭では、子供に、突然出現した一足早いサンタクロース（聖ニコラウス）の存在をどう伝えるかが大きな課題です。そして、休暇旅行中に、レストランがクリスマス・メニューのみとなり、思いがけない出費を余儀なくされることも……。

（日本銀行フランクフルト事務所）